

第68回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

JB058CE	中学	生物	奈良県
学校名	明日香村立聖徳中学校		
研究作品タイトル	飛鳥川の生物vol.11		
研究者氏名 (共同の場合はグループ)	中西 望、中井 悠幾、松本 胤真		
指導教諭氏名	城 律男		

【動機】

本校の郷土自然部では飛鳥川の生物を調査してきた。その歴史の中で水質が改善されていることがわかった。ところが近年それとは逆に生物が少なくなっていることに気づいた。そこで過去と同じ方法を用い調査してみることにした。

【方法】

水生生物を用いた調査は、その地点の水質を反映する方法として広く知られ、信憑性のある方法である。過去の調査との比較で、変化とその要因を明らかにすることができると思った。

【結果】

水質には大きな変化はなく、調査地点の最下流まで顕著な水質の汚濁は認められなかった。ところが個体数は大きく減少していた。

【まとめ】

水質を悪化させる現員は見当たらず、個体数の減少は河川の工事によって礫が土砂に埋まってしまったことや、河床の礫が土砂とともに除去されてしまったこと、夏場の湯水と水温上昇が原因ではないか。

【展望】

生物が少なくなっている現状を住民が知り、今後の自然の姿を生かした河川改修のあり方を提言することができる。